

塚越広大 レース結果報告



2010年3月20～21日 スーパーGT選手権 GT500クラス 参加台数13台
サーキット 鈴鹿サーキット

開幕戦が鈴鹿サーキットで行われました。今シーズンは昨年に引き続きケーヒンリアルレーシング、そして、新たに HSV-010 という NEW マシンで参戦します。

今年も2デイ開催ということで、土曜日の午前に公式練習があり、マシンセット、タイヤの比較を行い、予選に向けてセッティングを進めて行きました。

予選・・・1回目／7位 Q1／5位 Q2／9位

天候・・・晴れ

始めに予選基準タイムの107%をクリアするための予選が行われました。午前に引き続きマシンのフィーリングを確かめながら走行しました。公式練習よりもマシンのフィーリングがよくタイムも良くなり、ノックダウン予選に向けてさらにセッティングを進めました。

そして、迎えたノックダウン予選が始まり、各10分間のセッションが行われました。Q1のセッションが始まると同時にコースイン、タイヤに熱が早く入るようにマシンの左右に振りながら1周目を走りました。そして、いつも以上にタイヤの温まりが良く感じたので、予定よりも1周早くアタックに入りました。少しフロントタイヤの熱入れが足りず曲がりにくかったのですが、それを利用しコーナー侵入でタイムを稼げるように走りました。そして、このセッションを5番手タイムでクリアすることが出来ました。

次に300クラスの予選を挟んでQ2を年弘さんがアタックに入って行きました。しかし、年弘さんのアタック周に24号車がクラッシュ。そのまま走行を続けたため、パーツの破片がコース上にバラまかれてしまい、十分なアタックをすることが出来ず、9番手タイムとなってしまいました。

決勝・・・／7位

天候・・・晴れ／雨

日曜日の朝にフリー走行があり、決勝に向けてのマシンフィーリングを確認しました。朝方に雨が降ったため路面が濡れていて、さらに、レース中に雨が降る可能性があったため、最初に年弘さんがレインタイヤを装着しコースインして行きました。次第にコース状況が回復し、ドライタイヤでの走行が可能になり、約セッション時間半分が過ぎたあたりで交代しました。ガソリンを積んだ状態でのマシンバランスを確認し、決勝に向けて準備しました。



午後2時になり、フォーメーションラップが始まりました。しかし、空からは雨が降ったりやんだり安定しない天候の中52週のレースがスタートしました。その雨がレース展開を大きく左右しコース上では多くのマシンがコースアウトし順位の入替えがありました。さらに、11周目の1コーナーでクラッシュがありセーフティーカーが入りました。そこまでで年弘さんは7番手まで順位を上げていました。セーフティーカーランが解除されてからも、マシンの状況をピットに伝えながら走行を続け、レースの約半分でドライバー交代のためピットインしました。ここで、リアタイヤだけを交換しピットアウトしました。アウトラップで38号車の先行を許してしまいましたが、タイヤが温まってからは徐々に38号車に追いついて行きました。途中アウトラップの39号車、1号車を抜くことが出来、5番手で周回を重ねて行きました。

残り10周を切ったあたりから38号車の後ろに近づくことが出来、抜くチャンスを伺いました。後ろには1号車も迫っていたので、前後の動きを見ながら走りました。そして、50周目のスプーン

立ち上がりから背後に付き、シケインのブレーキングをしたあと、2つ目でインに入りました。横に並んだのですが、2台は接触してしまい、これが原因で27秒のペナルティーを受ける形となり、最終結果は7位でレースを終えました。

HSV010のマシンになってからの初めてのレースで、マシンがどのような動きになるか、レース中のドライビングの仕方などをたくさん勉強することが出来ました。最後の38号車とのバトルは、結果として接触してしまい相手にもチームにも申し訳なく思います。しかし、自分としてはあそこでしか抜くチャンスがなく後悔はありません。

今回のレースを反省し、オーバーテイク時にもっとうまく抜けるようにし、レース中の相手へのプレッシャーの掛け方などを考え、次回のレースに臨みたいと思います。

次回のレース・・・4月3、4日 岡山国際サーキット

塚越広大